

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774200923		
法人名	社会福祉法人 慶徳会		
事業所名	グループホーム ふじい		
所在地	大阪府茨木市見付山1-3-29		
自己評価作成日	平成27年2月17日	評価結果市町村受理日	平成27年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

裏庭にある畑を活用して、四季折々の野菜を収穫している。農家出身の利用者もあり、植えから収穫まで積極的に手伝って下さっている。また、農家出身でない方も、野菜の成長を見て気分転換をされたり、昔を懐かしんで会話をしておられる。現在、食事は副食については業者に依頼しているが、ご飯と味噌汁は施設で作っている。そのため、収穫した野菜はおかずや味噌汁の具材として使用したり、おやつに召し上がっていただいている。その他のアピールポイントは、地域との交流を大切にしている点である。例えば、自治会の防災訓練に参加している。それにより、グループホームに対する理解を深めていただく機会となっている。また、公民館で定期的開催されているサロンへの参加、毎月行っている他のグループホームと相互交流、茨木市内にある高校生との交流も継続している。また、市のボランティアセンターを活用し、様々なボランティアに来ていただき、張りのある生活を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福祉事業全般を当地域で運営されている歴史のある法人である。訪問調査当日には法人の代表者である理事長自ら参加されて、サービス評価を活用した事業所運営の質的向上に対する真摯な姿勢を伺うことが出来た。事業所は平屋の1ユニットのホームで、住宅地の周囲にマッチした家庭的な外観、内部も木質感を基調にした玄関、リビング、廊下、居室で家庭的な雰囲気のある事業所である。地域ボランティアの受け入れや学童、生徒との交流など入居している利用者が地域に触れ合いながら暮らしている様子が伝わってくる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームふじい独自の理念を管理者も職員も十分に理解し、実践につないでいる。また、日々の生活支援を重ねるなかで、部分的に変更し、現状に即したものにしている。	「穏やかな雰囲気の中で、ご利用者の気持ちに寄り添った支援、充実した日々を過ごしていただけるよう、張りのある生活の支援、地域との結びつきを重視した、開放された運営」を理念とし実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や福祉委員会の行事等に参加し、交流を深めている。また、散歩をする際には、近隣の方々と挨拶を交わすなど地域の一員として生活している。	開設当初から地域との結びつきを大切にす理念に沿って、地域福祉活動との交流に努めている。法人全体としても近隣住民、及び町内会等との関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域が開催する行事に参加したり、同法人の養護施設の子供達との交流を通して、認知症に対する理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の現在の状況やホームでの取り組みを報告している。また、支援の仕方等といったホーム内での問題についても報告し、出席者から意見や提案をいただいている。	法人理事長が毎回出席し自治会長や地域福祉推進委員、民生委員と懇談すると共に、事業所の運営状況、取組について情報を開示して地域の代表者からの意見を聞き、運営に活かしている。	法人全体としての地域密着サービスを目指す会議運用は他に例を見ないが、会議への家族の出席も望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者を受け入れており、随時、担当者である市のケースワーカーへ本人の状況やサービス内容を報告し、協力関係を築いている。	地域ケア会議の取組みなど行政や市社協とも協力関係を築き、茨木市の高齢者福祉の質の向上を視野に入れた取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、身体拘束として禁止の対象になっている行為について把握しており順守している。	法人全体として身体拘束をしない利用者への支援について研修し、職員は個々の利用者の状態を把握して話し合いながら支援方法を考えて、拘束の無い取り組みを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞で掲載されている高齢者虐待の記事などを通して、自施設で不適切な支援がなされていないか見返し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	かつて、日常生活自立支援事業を活用されていた方や現在活用されている方、保佐人が付いている方もおられるので、パンフレットなどを通して学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時解約時等、利用者や家族に対して話しやすい雰囲気作りに心がけ、不安や疑問等を伺って、じっくり説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のときに、介護相談員等に参加していただき、積極的に話せる機会を設けている。ケアプラン作成前に家族の要望を聞き運営に反映させている。玄関には意見箱を設置している。年1回、家族会を開催している。	家族の訪問時には本人の状態を知らせると共に、毎月、写真を入れたホーム便りを家族に届けている。居室担当の職員が事業所で暮らしぶりや健康状態を文書で詳しく伝えている。	居室担当の職員が書いている家族への便りは「お手紙」であるからフルネームの署名があれば、受け取る側との心が通じ合うように思う。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アットホームなので、特別な機会を設けているということはなく、常に意見や提案を言いやすい雰囲気である。	管理者と職員の関係、及び職員同士の関係など風通しの良い職場環境づくりに努めている。ミーティングや引継、申し送りを徹底し職員の情報共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との日々のコミュニケーションを通して、職員一人一人の努力や勤務状況を把握している。また、各職員との個人面談を通して、日頃抱えている思いに耳を傾け、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じて、内外の研修を受ける機会を設けている。また、同法人の近隣施設と合同で、人権研修や、サービス向上に関するものなど、様々な研修を行い研鑽している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと互いに行き来し、毎月、交流会を開催している。情報交換等も行い、サービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が話しをしやすい雰囲気作りに努め、傾聴の姿勢を大切にし、安心して生活していただけるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族の不安や要望に耳を傾けつつ、自施設でできることやできないことをお伝えしている。できないことについては、納得していただけるよう理由をきちんと説明し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、本人と家族等が困っていることを把握し、支援内容を協議している。状況に応じて地域にある社会資源も活用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見に積極的に耳を傾け、利用者が主体的に共同生活を構築していくことができるよう、職員はサポートに徹するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に遠慮することなく、家族が利用者に会いに来やすい雰囲気作りに努めている。電話や「月便り」で家族に日々の生活状況を伝え、共に支援に協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には、本人が慣れ親しんできた物を置かれることをお勧めしている。家族には、時折、本人の馴染みの場所へ連れていってもらっている。	家族の協力を得て、今までの暮らしで本人が大切にしてきたこと、趣味や得意なことなどを聞きとめて、今まで通りの暮らしが出来るような支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で口論になるなど、相性の良さあしも見られるが、職員が間に入ったり、座席等に配慮するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、利用者との関係を大切に、希望があれば相談に乗り、地域にある社会資源の情報を提供したり、入所の申し込みなど協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人との対話を大切に、その人の思いを組み取るよう心がけている。意思疎通の困難な方については、本人本位に検討し、家族等本人の性格をよく知る方に相談することもある。	家族とも相談しながら、本人が希望する暮らし方、時間の過ごし方確認し、意向に沿った生活のリズムが作れるようにしている。本人との関りの中から得た情報を職員同士が話し合って支援方法を決めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から入居後にかけて、本人や家族やケアマネージャーなどから、可能な範囲で生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の支援をするなかで、日々どのように過ごされているかということや体調の変化を把握し、残存能力の活用に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来所された折には、日々の様子をお伝えし、課題やケアについて話しあっている。本人とは普段の会話のなかから日々感じていることや要望をさりげなく伺い、介護計画に活かしている。	計画の見直し時期には、家族の意向を聞き、かかりつけ医や関係者の意見を参考にし、カンファレンスでの職員の話や介護記録を元に、介護支援計画書を作成し、家族にも説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別支援経過記録を設けており、左記の内容を記述することで、職員間で情報を共有し実践に活かしている。また、連絡簿をとおして情報の共有を図り、実践や介護計画の見直しに使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険で定められているサービスに限らず、利用者や家族からのニーズがあれば対応可能かどうかを考慮し、できるだけ柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館等の文化行事に参加したり、様々なボランティアの協力を得ながら利用者1人1人が能力を活用し、主体的に暮らしを楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診について、本人や家族の希望を大切にしている。そして院内のソーシャルワーカーを介するなどして、かかりつけ医との連携を取ることに努めている。	本人及び家族の希望を優先してかかりつけ医を選定している。かかりつけ医とは連携を取って本人の体調変化を把握し、早期発見、早期対応の医療支援体制に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日々の状態観察のなかで気づいたことを、随時、当ホームの看護師に報告している。看護師と相談し、必要に応じて受診等している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された際には、家族や医療ソーシャルワーカーと密に連絡を取り、入院中の状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居前と入居時に本人と家族にお伝えし納得していただいている。	重篤の状態になった場合の事業所の対応を初期の段階で家族に説明し同意を得ている。現実に状況が変化した場合はかかりつけ医の指示により、家族の協力を得て、出来る限りの対応を行う体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練は同法人の近隣施設と合同で行っている。AEDの研修は、毎年、法人内で行っており、積極的に参加している。緊急時に即座に対応できるよう継続的に訓練を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同法人、近隣施設と共同で、避難訓練を行っている。地域への協力体制についての呼びかけは、運営推進会議のときなどに随時行っている。	近隣住民の協力が得られる状況である。法人全体の防火防災組織が確立されている。消防署の指導を得た避難訓練が定期的に行われ、通報、消火設備が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を大切にし、プライバシーに配慮した言い廻しを心掛けている。しかし、利用者に対して、急かすような言動も聞かれたことがあったので、言葉使いについて職員同士で注意しあうようにしている。	法人による職員向け接遇研修等で、利用者の人格の尊重、プライバシーへの配慮等について学習すると共に、現場では職員同士が注意し合うように努めている。職員の利用者への声掛けも親切で穏やかな対応であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の生活を支援する立場にあり、主役は利用者であるため、本人の希望を大切にしている。発語の少ない方には表情等からくみ取り、選択肢を用意し選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やむを得ず職員側の都合を優先することもあるが、可能な限り一人一人のペースを大切に、希望に沿うことができるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者やその家族から過去の生活様式について伺っている。そのなかでオシャレについて、一人一人の好みを把握するよう心がけている。また、その人らしい身だしなみにも気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者一人一人の生活を支援する立場にあるため、一人一人の能力を引き出すよう心がけ、利用者と一緒に食事の準備や片付けをしている。	食事の準備、配膳、後片付けなど家事を行う機会として利用者の能力を引き出すように促している。会話のある家庭的な食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の食事量や水分量に気をつけている。栄養士指導のもとバランスを考慮した食事提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員支援のもと、口腔ケアをしている。毎食後には、義歯の洗浄・消毒を行っている。また、週に1度歯科衛生士による口腔ケア・検診も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗のある方については、時間を決めてトイレ誘導を行っている。排泄の自立に向けて、サポートしすぎないように注意を払っている。	自立したトイレでの排泄が継続できるように、記録により排泄のパターンを知り、事前の声掛けで誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、看護師に相談しながら、飲食物の工夫や適度な運動を行う等、個々に応じた予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事等の予定を立てづらいため、入浴は週3回(月・水・土)と一応は決めている。ただ、そのときに入浴を希望されなかった方については、時間をずらす等臨機応変に対応している。	あらかじめ予定を決めて入浴支援を行っている。拒否がある場合は時間を変えたり、必要により清拭に切替えたりして清潔保持に努めている。ゆっくりお風呂に入ってもらおうように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に、就寝時間や起床時間を定めているわけではなく、可能な限り、利用者一人一人のリズムを尊重している。夜間、良眠していただけるよう、日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の服薬リストをファイルし、服用の目的や副作用、用法や用量について情報を共有できるようにしている。また服薬の支援や症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴から知り得た趣味をお勧めしている。また、家事全般のなかで、一人一人の能力を見極めつつ、得意なところを協力していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望を伺いつつ、可能な限り家族の協力を得ながら、散歩等外出できるよう支援に努めている。また、車での外出もたまにはあるが行っており、利用者の意見も聞きながら機会を設けていきたい。	森を背景にした近所への散歩、買い物や家族との外出など、利用者の体調に応じて外気に触れる機会を作っている、また花見や季節季節にあった外出も企画して、利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で現金を保持していると安心される方には、家族の了承を得て少額の現金をお渡ししている。希望を伺い、一緒にスーパーへ買い物に行ったり、ホーム喫茶や外の喫茶店に行く支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みを希望される利用者には、家族と相談したうえで所持していただいている。当ホームの子機をお貸しして、居室でゆっくり電話していただくこともある。希望があれば、手紙のやりとりの支援も行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度の管理は常に気をつけている。トイレの場所もわかりやすいよう表示している。季節の花を生けるなど、季節感を大切に工夫している。	平屋造りを活かしたゆったりとしたレイアウトで、利用者が寛いでいるリビングは自然光が良く入る天井が特徴的である。家庭的な木質の雰囲気が落ち着きを感じさせる。廊下のベンチ風なしつらえも設計者の配慮を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから離れたところに廊下のベンチが数カ所ある。木製で固いため、職員と利用者で編んだ座布団を各所に敷いている。それによって一人で座ったり、気の合う方同士で座っての会話が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居という環境の変化に適応しやすいよう、各々、使い慣れた家具やお好きなものを持ちこんでいただき、落ち着いて過ごしていただいている。	居室は清潔である。家族の協力を得て、利用者が安心して過ごせるように使い慣れた家具や備品を室内に置くような配慮があり、また転倒防止などの居室内安全面への工夫が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の表札はわかりやすく、目の高さに設置している。また、廊下やトイレ等に手すりを設置している。安全性を考慮して、キッチンにはガスではなくIHを用いている。		